

第4回

航空機事故を激減させた NASAの重要な仕事とは？

加藤 貴之

株式会社メンティグループ代表
法人向けストレスチェック、メンタルヘルス対策コンサルティング、
及びマニュアル作成支援事業等
<http://www.stresscare.com/>



「不安全情報」を徹底的に集めたNASA

宇宙開発で有名なNASA(米航空宇宙局)は、あまり知られていない重要な仕事もしています。それは航空機の「不安全情報」を集めることです。

一九七〇年代までは、死者一〇〇人規模の大きな航空機事故が相次ぎました。事故防止は急務であり、それには事故に至る前のミスやエラーの段階の情報をたくさん集めることが重要と考えられていました。

そこで、NASAとFAA(米連邦航空局)が協力して、一九七六年にASRS(航空安

全報告システム)という制度をスタートさせました。

これは画期的な制度でした。というのは、パイロットの責任を問わないことを約束したからです。それ以前からパイロットにミスを報告させようという動きはあったのですが、自分のミスを報告することによって、航空当局から免許停止などの処分を受ける恐れがあったため誰も報告しませんでした。新制度は、報告者に対しては、一定の条件のもとにミスの責任を問わないことにしたのです。

すると、あっという間に大量のミス情報、不安全情報が集まり始めました。NASAはそれらを分析して航空機の安全運行に役立つ情報に変えていきました。多くの人が安心して飛行機に乗れるようになったのは、NASAの仕事に負うところが大きいと思います。

制度開始から四〇年が過ぎましたが、二〇一六年には年間で九万件以上の不安全情報の報告が集まっています。「着陸のときに、他のことに気をとられて降着装置(脚)を出し忘れました。あわてて出しました」といった、誰にもバレないようなミスも報告されています。これらはチームごとに整理されて、わかりやすい月次レポートにまとめられています。パイロット、客室乗務員、整備士、地上職員、管制官が不安全情報をNASAに報告し、それをNASAが整理してレポートにする。レポートは、みんなで読んで情報を共有する。いわば、航空業界の全員が会社の枠